

# Saidaiji JC Report



## 一年を振り返って



### 理事長 井上 裕嗣

私の好きな作家栗本薫さんの著書の中にこのような一節があります。『思い出はいつも若く、人はいくたびもそのなかへかえっていく。』

私にとって多くの苦しみと多くの喜びを内包したこの忘れることのできない一年のことを、私は懐かしい記憶とともに幾度も思い出すのではないかと、今はそのように感じています。

2010年の夏、50周年実行委員長として周年事業に奔走していた私は、次年度理事長への就任要請に当初は辞退する旨の返答をしておりました。私が理事長という重責を担うことを決断できたのも、現役メンバーの後輩達が、私が理事長となるための準備期間中、全力でバックアップしますと約束してくれたことや、ひとりひとりが青年会議所の未来にしっかりとしたビジョンを持っていると知りえたことが、最大の理由であったと思います。メンバーの支えがあってなんとか理事長となることができた私は、なによりもメンバーのために理事長として私に何ができるのか、という命題を一年間常に意識し、メンバーへの感謝の気持ちを理事長としての行動によって顕すことを自らに誓いました。感謝の心から生まれたスローガン『imagine (想い描くこと)』は、後輩メンバー達へのメッセージでもありました。青年会議所は単年度制のため、事業後の達成感と充実感をもって事業自体が成功したとすぐに判断し、数年後に事業がもたらした結果や、年度終了後の未来には目を向けない傾向があります。私がスローガンを通してメンバーに伝えたかったことは、運動自体を目標とせず、運動の先にある未来にこそ目を向けていただきたいということでした。価値とは創り出すもの。ルールとは見直すべきもの。青年会議所の未来はメンバーひとりひとりの手に委ねられています。どうかあなたが自身の運動を心に想い描いて下さい。思い返しますと本年度は本当に恒の年とは様相を異にする一年であったように思います。3月に発生した東日本大震災の被災地における支援活動と並行し、西大寺青年会議所の新たな時代を築き上げるために、新会員獲得はもとより、会員拡大に向けた新たな取り組みへの挑戦や、次年度以降も新事業に積極的に挑戦していただくための従来事業の大幅な見直し、一般社団法人への移行を視野に入れた運営方法や定款の変更、使用フォーマットの全面改訂など、本年のサブスローガン『すべては未来のために』を具現化するがごとく、本当に多忙な一年間でありました。しかしながらメンバーの皆様は、最後まで足並みを揃えて必死についてきてくれました。心から感謝致します。また理事長となるまでの長い間、お力添えをいただいた全ての皆様に、厚くお礼を申し上げます。一年間本当にありがとうございました。

## 直前理事長 小川 大志

本年度、井上理事長のもと直前理事長を務めさせていただきました。

2006年に入会させて頂き6年間という短いJC運動でしたが、無事こうして卒業の日を迎えられるのも、現役メンバー、諸先輩方、関係各位、そして会社と家族に心から感謝申し上げます。

6年間を振り返ると色々とありましたが、やはり50周年という節目の理事長をさせて頂けたことが私にとって、とても価値のある一年間だったと思います。

継続事業にも右往左往をしていた私を含めたメンバー一同、何をするのかの前に、まずは何を目的に行うのかを考えるとところから全員で話し合い、周年記念事業、50周年式典・祝賀会の計画を行いました。時には険悪な雰囲気になるほど、“ド真正面”から事業の成功に向けて、全員で取り組めたことは、とても意義のあるものでした。そのお蔭でどの事業も最高の緊張感、達成感を感じることが出来ました。一時は、休会を考えざるを得ない時期もありましたが、当時の理事長やメンバーから叱咤激励を頂き、自分自身の甘さと友情の有り難さに気付かせて頂き、踏み留まれたからこそ価値のあるJC運動が行えたこと心から感謝致しております。

最後になりますが、JC運動の中で、多くのことを学ばせて頂いた中でも、特に感じていたのは、「魅力ある人が身近にいる」ということでした。

逆から捉えると、「誰もが魅力ある人になれる」ということでもあると思います。

現役メンバーの皆さんは、様々な人に支えられてJC運動ができていたことを忘れず、(社)西大寺青年会議所が魅力ある人、魅力あるまちの創造に、今後も益々ご活躍されることをご祈念、ご期待申し上げます。本当にありがとうございました。

## 副理事長 長田 智宏

本年度は、井上理事長のもと副理事長として文化継承委員会を担当させていただきました。

担当させていただいた文化継承委員会は、新旧の事業が入り交じるなか前年の11月から少年はだか祭りの準備が始まり、2月には委員会初の事業である「第40回少年はだか祭り」が、多くの方のご協力をもって盛大に開催することが出来ました。また、ロムの最終事業である卒業式を12月に行いました。「卒業生の小川君、小野田君には思い出に残る卒業式にしたい!」という藤本委員長の想いで委員会メンバー全員で企画し、ロムメンバーの助けも借りながら準備を進めました。ご卒業されたお二人には、笑いあり、涙ありのなかJC生活を振り返りつつ、小学校の時の卒業式も思いだしながら、卒業式の思い出として心に深く刻まれたことと思います。

年当初、井上理事長をサポートし、また、委員会と執行部の橋渡しを精一杯頑張るといいましたが、この一年間、副理事長の立場でありながら新理事だった藤本委員長に助けられ、教わることも多くあり、また井上理事長にはサポートをして頂き、私自身とても意味のある貴重な一年となりました。

これも理事長はじめとするメンバーの団結があってこそだと思います。

一年間本当に有り難う御座いました。

## 副理事長 赤木 朋央

本年度、井上理事長のもと一年間副理事長を務めさせて頂きました。本年度中盤に理事長が怪我をされ、会議等々代理出席の場面があり、幾つか代理で出席させて頂きましたが、出席できない会議等が多々あり執行部の皆様にはご迷惑をお掛けしました。

そして本年度初理事の國本委員長率いる地域連携委員会の担当副理事長として精一杯委員会のサポートをしてきました。その想いとして私が初委員長を拝命した時の担当副理事長に大変お世話になったからです。出来る限り委員会には出席し、口は出すが手は出さないと言うことを一年間貫いてまいりました。それは、委員長以下委員会メンバーの成長を願いそうしてきました。本年度のスタート時点では3名だった委員会も終わってみれば6名という大所帯になり、委員会メンバーの半数は本年度入会した新会員ですが、委員長の人柄からかメンバーをまとめ上げて頂いたと思っております。そしてこの一年委員長はもとより、委員会メンバーは素晴らしく成長したと思っております。一年間お疲れ様でした。

最後になりますが、各事業をするに当たりご協力頂きました関係者の方々、青年会議所メンバーには心より御礼申し上げます。

## 専務理事 中山 俊之

井上理事長のもと1年間に亘り専務理事を務めさせて頂きました。井上理事長のサポート役としてまた西大寺青年会議所の窓口として取り組んで参りました。

今年何をおいても忘れる事が出来ないのは3月11日の東日本大震災です。以降日本全体が自粛ムードに包まれ、そしてそのムードは西大寺青年会議所が主管で5月に開催予定だった岡山ブロックじゃがいも大会にも及びました。開催決定に至るまでの過程において、日本JCじゃがいもクラブを始め関係各所より情報収集が出来た事は、自身にとって良いトレーニングとなりました。又県内の各地会員会議所の専務方とのコミュニケーションを図る事で、専務同士のフレンドシップを深める事が出来ました。そしてチャリティーを導入しての本大会を開催できた事で、社会への奉仕につながりました。会員会議所会議を始め色々な行事等に、1年間井上理事長に同行させて頂きました事で、理事長職の大変さを知る事が出来ました。今後も今年一年間の経験を生かしJC運動に邁進していきたいと思えます。結びとなりますが私のような者を専務に任命して下さった理事長に、そして専務として成長させてくれたメンバーの皆様に感謝を申し上げます。一年間本当に有難う御座いました。

## ブロックじゃがいも大会実行委員会 実行委員長 塩崎 鉄司

本年度、第82回岡山ブロックじゃがいも大会実行委員会の実行委員長を務めさせて頂きました、塩崎鉄司です。初の岡山県内各地青年会議所の会員の皆様を対象とした事業という事で、年当初から、どのようなおもてなしをすれば、相互の交流や西大寺JCをアピール出来るかを考えながら、設営準備を行って参りましたが、3月11日の東日本大震災の発生により状況は一変しました。このような時期に開催して良いのか、また開催するなら被災地支援を取り入れた大会をと、待ったなしの選択をしなければならぬ状況になり、非常に慌しくなり開催決定の案内が遅れてしまい各方面の皆様にはご心配をお掛けしてしまいました。なかなか自分の中では決められず、色々な方からご意見やアドバイスを頂き、今回の大会は被災地復興支援も目的として、チャリティーを導入して開催するという運びとなりました。何分、準備期間が短い中でチャリティーの内容を盛り込んでいく事は、準備をする上で簡単ではありませんでしたが、井上理事長をはじめメンバーの皆様には当日は設営に一丸となって当たって頂き、正直ここまでスムーズに行けるとは思っていませんでした。また特別会員の皆様には、西大寺主管の心意気という事で多くの方が当日登録頂き、少ない現役メンバーのため、後押しをして頂いたと思い、有り難う御座いました。大会チャリティーの方も想像以上の金額を被災地に送る事が出来、藤井昭佐じゃがいもクラブ会長をはじめ、大会にご登録頂きましたすべての皆様の温かい御支援の心を頂き本当に感謝申し上げます。最後に一年間、重要な役職に任命していただいた井上理事長、そして頼りない私を支えて頂き、またやりたいようにやらせて頂いたにもかかわらず文句も言わず御支援ご協力いただきましたメンバーの皆様、本当に有り難う御座いました。

## 会員拡大広報室 三枝 克守

井上理事長にご指名をいただき、本年度は会員拡大広報室の室長を務めさせて頂きました。

会員拡大を担う室として、拡大対策会議の開催や勧誘パンフレットの作成配布、更には広報誌の発行によるLOM事業のPR、そして例会を公開して候補者の方に参加していただきました。自分の思いを全て形にすることはできませんでしたが、精一杯会員の拡大に取り組みました。

結果的として、本年度は4名の方に入会していただくことができましたが、その入会は特別会員の先輩方やメンバー、また知人からの紹介がきっかけでした。先輩方や地域の方々との繋がりがあからこそJC運動を続けていくことができるのであり、本当にありがたいことだとあらためて感じました。

この1年間でたくさんの地域の方々とお会いすることができ、西大寺青年会議所についてお話をさせて頂きました。新しくできた繋がりを今回で終わらせてしまうことなく、様々な方法で青年会議所と関わっていただけるよう考え、一緒に運動が行える仲間になっていただけるよう今後も取り組んでいきます。

1年間サポートしていただいた皆様、本当にありがとうございました。

## 監事 小野田 竜也

この一年間は、私もいよいよJC活動最後の年となり、西大寺JCメンバーの皆さんと少しでも多く時間を過ごしたいと思いましたが、可能な限り行事には参加しようと考えておりました。が、結果は仕事の関係上やはり思うようにはいきませんでした。メンバーの皆さんにはかなり迷惑をおかけしたとは思いますが、自分としてはできるだけ事はしたと思います。そして、今年は監事としての大役を任せられ一年間活動させて頂きましたが、いざ監事講評をすると意外に難しい事だなあと感じました。この職務はJCの中身をできるだけ把握していないと、いざ講評する時に言わないといけない事を指摘出来なかったりと、上部の講評になりがちになってしまいます。私自身、正直JCを熟知している訳ではなかったのが大変難しかったと感じており、反省するばかりであります。

最後になりますが、今の現役メンバーの皆さんを始め、特別会員になられております私に関わって頂いた先輩方には大変お世話になりました。

## 総務委員会 委員長 坪井 綾広

本当に総務委員長として担いを全う出来るのだろうか、不安でいっぱいだった1年前の事がつい最近のように思い出されます。2007年に初めて理事をさせて頂いてから以降、様々な委員会を担当させて頂きましたが、自身が苦手な経理や事務を主とする総務委員会から逃げ続けてきました。ところが2010年、創立50周年を成功させ、副実行委員長としての担いを達成した頃、次なるステップを考えるようになりました。それは、西大寺青年会議所の核を知らなければならない、そして一番苦手な分野に立ち向かう事で、自らを克服しなければならない。これこそが総務委員会委員長に拝命して頂いた最大の理由であります。

苦手な分野だけに、後手にまわって事が悪化しないよう、一足先を見据えた素早い事業展開に心がけ、特に法人移行には力を入れました。当初は申請手続きの準備だけで次年度に引き継ぐ予定でしたが、引継ぎ困難となった為、年度中に申請完了する事を目指しました。一方、講師を迎えての新公益法人の研修会を始め、公益社団法人と一般社団法人どちらが相応しいか、全員で考える研究も行いました。こうしたメンバーのご協力あって10月下旬、一般社団法人への申請手続きを県内15LOM中3番目に完了しました。今では恐れを克服出来たせいか、胸を張って“やれば何だって出来る”と、人に言える自分に成長できたような気がします。事務的な失敗もあり、皆様には大変ご迷惑をおかけする事もありましたが、私に総務委員会を託して頂いた皆様には心から感謝申し上げます。また、東日本大震災の復興支援の募金活動に支援頂きました一般市民の方々を始め、特別会員の皆様、本当に有難うございました。お亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈りすると共に、2012年度は明るい兆しを地域に照らしていけるよう、更に力を入れて頑張っていきたいと思っております。

## 文化継承委員会 委員長 藤本 成浩

本年度、文化継承委員会の委員長を務めさせていただきました。この一年間を振り返ってみるとあっという間に過ぎていった一年であったと思うと同時に、内容の濃い一年であったと思います。

文化継承委員会のメイン事業である『少年はだか祭り』では西大寺青年会議所が誇る伝統事業をしっかり受け継ぎ、進化させなければいけないという思いで設営・運営を行いました。委員長としての未熟さから反省点の多い事業になってしまい、達成感があったものももっとうまく出来たのではないのかと悔しい思いもしました。

この悔しい思いを忘れないよう、それ以降の事業には私なりに全力で取り組めたのではないかと考えています。

この一年、時にはやらなければいけない事の量と作業できる時間のバランスの悪さに悩んだこともあります。悩みながらも一年間委員長職を務めることが出来たのは委員会メンバー・委員会の枠を超えて助言、尽力してくれた会議所メンバーのおかげだと思っています。

本年度は大変な一年でしたが自分自身を成長させてくれた貴重な一年だと思っております。

最後に、委員長一年目でどうやって委員会や事業を進めていけばいいか分からなかった私を厳しくも優しく指導してくれた長田副理事長、一年間頼りない私を支えてくれた委員会メンバーの皆さんには本当に感謝しています。

これからも西大寺青年会議所の一員として頑張っていけますので今後ともよろしくお願い致します。

## 地域連携委員会 委員長 國本 秀範

本年度、初理事という事でやや緊張ぎみでスタートしました。同時にJ Cのことがあまり分かっていなかったと気づき恥ずかしさもありました。特に三信条の一つ【友情】を身をもって感じる一年になりました。

委員会メンバー、L O Mメンバー、皆に助けられ何とか任された事業を無事終わりました。地域連携委員会としては、七月に行いましたサマーキャンプが印象に残っており、私がいたらない為連日連夜、夜中まで委員会メンバーは委員会に付き合ってくれました。そのおかげでキャンプを終え、久しぶりに達成感と言いますか、言葉で何と表現していいか分からない気持ちになった事、とてもいい経験が出来たと思えました。

最後に、皆様と協力して頂いた方々に一言、有難う御座いました。感謝です。

## ブロックじゃがいも大会実行委員会 副実行委員長 長谷川 豪範

本年度、第82回岡山ブロックじゃがいも大会実行委員会の副実行委員長を務めさせて頂きました、長谷川豪範です。本年度の広報誌も昨年同様担当させて頂き、三枝室長の熱意で年6回発行する事が出来ました。メンバーの皆様にはお忙しい中ご協力頂きありがとうございました。

今年は、初理事、初対外事業、初ゴルフと初が続き一年間緊張の連続でした。じゃがいも大会については当初何も知りませんでした。キャプテン会議や本大会を経て現役会員だけではなく特別会員の皆様との深い繋がりを感じJCのすばらしさを体感出来ました。

また全体会議やキャプテン会議、前日準備など深夜遅くまで現役メンバーの力をかりることが出来、特別会員の皆様にはチャリティーオークションに参加して頂き沢山の義捐金を集めることが出来ました事篤く御礼申し上げます。最後に今年一年間支えて下さった皆様、ありがとうございました。



## 11月例会



東日本大震災以降、私たちは災害についての認識が変わっては来ているものの、実際に災害が起こった場合の被害予測や、また災害対策について知る機会の少なさに大変憂慮しておりました。そこで、今回の11月例会の委員会アワーにおいて、岡山市防災管理課で課長補佐の横島吉昭様をお招きし、こういった対策についての勉強会の場を設けさせて頂きました。

災害に直接携わる方から具体的な話を聞く事で、防災・減災についての捉え方、避難に対する誤解や、その他対策において今一番何が必要とされているかなど、よく理解できました。その今一番必要とされている事こそが、J C運動として常に取組んでいる“地域全体”で物事を捉えるという事でありました。しかしながら、私たちの住む地域に、地域全体で取組むべき防災組織は無いに等しく、青年会議所運動を行うものとして、絶対に眼が離せない重要課題となっているのです。

青年会議所は、地域の歯車をまわす原動力の一つです。地域防災・減災対策について誰かが運動を起さなければ、歯車は絶対に回る事はありません。今後は更に危機管理意識を高めながら、地域防災組織確立に対する事業取り組みへの提言を行える機会を造っていきたく思います。

総務委員会 坪井綾広



# OB 懇親会



特別会員の方にお越し頂き、盛大に懇親会を開催する事が出来ました。現役とOBの方々が交流できる機会が少ないので、大変重要な会の一つであり、貴重な時間だと思います。その中で色々なお話をし、現状をご報告したり、現役会員に対してアドバイスを頂いたり、とても有意義な時間となりました。

ご出席頂いた特別会員の皆様、有難う御座いました。今後も貴重なご意見を頂ければと思っております。

地域連携委員会 國本 秀範



# ごふくまつり



12月4日(日)に、本年度最後の対外事業であるごふくまつりが行われました。予定されていた土曜日が天候不良のため日曜日に変更され、子供たちだけでなく、他団体の方やJCメンバーが集まれるかという心配もありましたが、朝早く寒い中、たくさんの人たちが集まり、楽しいごふくまつりが開催されました。

本年度、私達JCは500mlペットボトルと紙粘土を使って貯金箱を作成するブースを開きました。開始して少し時間が経つてくるとだんだんと子供たちが集まり、一生懸命に貯金箱を作っていました。子供たちには、いつも捨てているペットボトルの身近で簡単なりサイクル法を体験してもらうことができました。毎年行われている餅付きには、本年度は、一つの白をJCにまかせていただき、例年以上にお餅をつくことができました。つきたてのお餅はきなこ餅やぜんざいにしてふるまわれており、大変おいしかったです。また、他の事業に参加してくれていた子供たちの元気で楽しそうな顔を見ることができてうれしかったです。開催にかかわってくださった団体の方、朝早くからの参加、餅付きで筋肉痛になったメンバー、皆様おつかれさまでした。

地域連携委員会 中西 秀和

# 12月例会

12月14日に12月例会を行いました。

私たち文化継承委員会としては本年度最終の事業、そして今期をもって御卒業されるお二方にとっても最終の例会ということで準備を重ね万全を期した会でしたので、粛々と進行できたのではないかと思います。委員会アワーが卒業式ということもあり、出席率も100パーセントとなり、卒業生のスポンサーの先輩方とメンバー全員で盛大に卒業の日を迎えられたお二人をお送りできたことを喜ばしく思いながらも、一抹の寂しさを感じた感動的な卒業式でした。そして会の終盤では、井上理事長より次年度理事長予定者である三枝君へのバッジ交換式が行われ、井上理事長の本年度の激務に対する労いの拍手が起こると共に三枝次年度理事長のもと、メンバーの来期に懸ける思いが伝わってまいりました。

今例会をもって本年度の当委員会の事業自体は最後となりましたが、それぞれのメンバーがすでに来期の事業に向かって動き出しております。区切りの事業を終えた今より、これまで以上に充実した地域に対する活動を心がけたいと思います。

文化継承委員会 宗石 幸治



## 卒業式



2011年12月14日、西大寺青年会議所2011年度卒業式が、当日の凍えるような寒空とは相反し、温かく、和やかに執り行われました。

卒業式には現役会員の皆様に加え、本年度ご卒業される会員のスポンサーであられる先輩方もご参加下さいました。式においては、現役会員全員によるストレートなまでの「送辞」を初め、担当委員会委員長が睡眠と引き換えに作り上げた「経歴紹介」、色々な意味で微妙なまでに絶妙、奇妙なスペシャルネックレス（担当委員会立案・製作）の贈呈といった、とても手作り感の強い心温まる卒業式を取り行うことができました。ご出席頂きましたスポンサーの方々を初め、現役会員メンバーの皆様方には心より御礼を申し上げます。

最後に卒業生の皆様方、ご卒業おめでとうございます。卒業が別れを繋ぎ、始まりが彩られることでしょう。

文化継承委員会 仁科 健

# 新入会員紹介 小野 真人

はじめまして。11月より西大寺青年会議所に入会させていただきました小野真人と申します。現在、父である社長より事業を承継すべく修行中でありますので同年代の経営者の方達がどのように事業を展開しているのか。またどのような想いで社員や地域と関わっているのかについて非常に興味を持っていました。

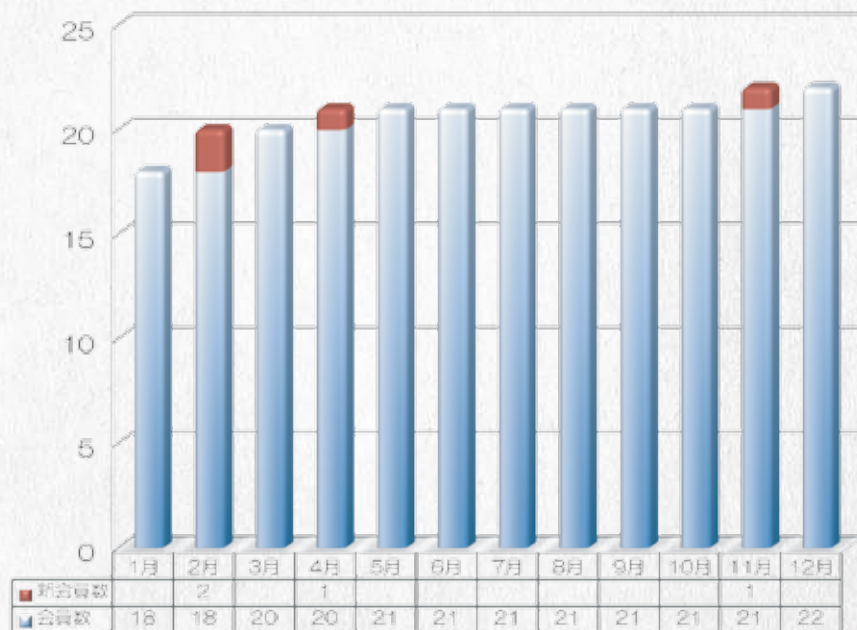
そんな同年代の経営者の方達と地域の発展に貢献していく中で、友情を深め共に思想を語り合えるような関係性を構築したいと思っています。また中小企業の使命でもあります、企業を存続させていくという中で地域発展への貢献は必要不可欠な要素ですが、地域のために何をしていくべきなのか……。まだまだよく分かっていません。しかしこの伝統ある西大寺青年会議所の指針を腹に落とし、ただ事業を行うのではなく意義・目的を追求しながら早く戦力になれるよう努めていく所存です。

皆様には大変ご迷惑をおかけすることと思いますが何卒ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

小野 真人



## 会員状況



2011年12月末現在

全国 LOM 数 704 LOM  
全国会員総数 38,787名  
(平成23年12月1日現在)

うち女性会員数 2,247名  
(平成23年12月1日現在)

西大寺 JC 会員数 22名  
(平成23年12月1日現在)

うち女性会員数 0名  
(平成23年12月1日現在)

発行日	平成23年12月吉日
発行責任者	井上 裕嗣
発行責任者	三枝 克守
編集責任者	長谷川 豪範
発行所	社団法人西大寺青年会議所